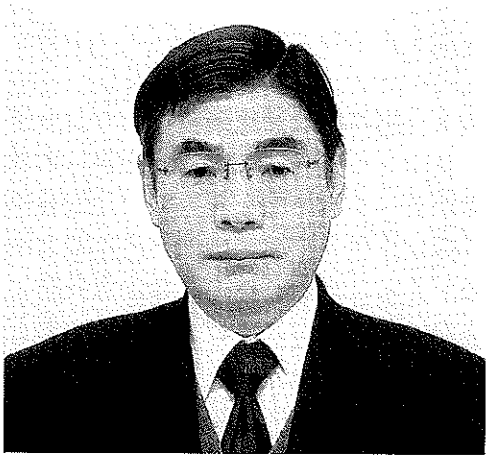
2011. 4. 1

日本カウンセリング学会　第9号

認定カウンセラー会 ニューズレター

日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-2 佑和(ゆうわ)ビル2F
TEL&FAX 03-6304-1233

認定カウンセラー会の副会長に就任して



水野修次郎（麗澤大学）

よくわからずに副会長の職を受けてしまい、その役割の大切さを思うと、私でよかったのか深く反省しているこのごろです。田上先生からよく学び、何ができるかを考えたいと思います。

次の文章は、認定カウンセラー会の動向を踏まえて、今後の提言をいたしました。いろいろな意見が寄せられることを期待します。

（1）存在が見える認定カウンセラー

カウンセラーの役割に変化が生じている。10年前までは、カウンセラーは舞台の『黒子』のようになるべく気づかれることなく活動する役目であった。ところが、カウンセリングに対する社会の認識が高まってくると、社会のリーダーとしての役割への期待が高まってきた。つまり、個人への心理援助だけでなくて、社会、文化、経済的な要因にも注意を払い、社会システムの中に個人の発達に及ぼす悪い影響があれば、それを指摘し、排除するという役割が期待されている。

カウンセラーは、不登校者を減少させ、自死を防止し、ひきこもりを防止し、児童虐待・ＤＶを防止し、子育て支援、犯罪被害者支援、などの社会問題解決に対して発言し、行動し、国民の心の健康を増進する活動のリーダーとしての役割が期待されている。これはかなり大きな変化といえる。

このようにメンタルヘルスの向上に対してリーダーシップを発揮するためには、カウンセラーには新しい専門性が必要になる。

そこで、カウンセラー教育に、社会システム理解というカリキュラムが必要になる。つまり、社会システムを理解する能力、効果的なカウンセリングプログラムを開発し、実施し、その効果を評価する能力を育成する必要がある。これは、クライエントが来るのをカウンセリング室で待つというモデルから大きく異なるモデルである。

（2）認定カウンセラーの意識

カウンセラーとしての意識として、第一段階に自己意識が必要になる。個人のパーソナリティがカウンセリングに与える影響を知る必要がある。第二段階として、対人関係意識が必要になる。つまり、非審判的態度、共感的理解、純粋性などのコミュニケーション力があるカウンセラーの育成である。さら

に、第三段階に社会システム意識が必要になる。環境が個人の発達に与える社会システムの影響を意識することが必要になる。

もともと病理を扱う臨床心理学とは異なり、カウンセリングは発達という概念で個人を理解する傾向はあったが、さらに経済状態、健康問題、家族関係、その他の環境要因のために個人の発達が阻害されていないかを注意し、環境の改善に努力することが求められる。

特に、現在、カウンセラーに求められている能力は、情報伝達能力である。いろいろなメディアを用いて情報を伝達する、広報に関連して他の専門家集団と協働する、カウンセラーによって行われる情報伝達活動の影響をアセスメントするなどの技術育成が課題となる。

そこで、認定カウンセラーはカウンセラー教育だけの情報ではなく、大衆が必要とする健全な発達を促進する情報やメンタルヘルス情報を発信する必要がある。情報の伝達者としての役割が加わった。

（3）標準的な注意義務とカウンセラー能力のスタンダードを設定

カウンセラーに対する社会からの期待が高まると、カウンセラーはどのようなことをする人たちであるかという標準的な能力や、注意義務の標準を設立する必要がある。

認定カウンセラーの標準的な能力や技術は何であるかを明確にできれば、社会もそのようなものを求めてくる。また、標準的な注意義務とは、自死の可能性がある場合には、どのようなアセスメントをするか、またどのように予防するかなどの注意義務化することによって事故を防止することができる。たとえ、事故があっても最小なものに予防できる可能性もある。

カウンセリングにはいろいろなオリエンテーションがあるが、それらに共通して見られる技術や知識を明確にして、社会に対して発信することが求められる。

（4）社会のための認定カウンセラー会へ

認定カウンセラーは、相互研修や相互研究のための研修・教育・研究という役割だけでなくて、国民や大衆のメンタルヘルス向上へ貢献するという役割を付け加えた。災害支援、悲嘆のわかちあいグループ、キャリア支援などは、その典型的例である。このような活動がもっと増えると、社会のための認定カウンセラー会がもっとよく見えるものになるだろう。その他、子育て支援、犯罪被害者支援、ひきこもり対策支援、自死の予防、結婚・家族支援、キャリアカウンセリングなどがある。

認定カウンセラー会は、健全な発達を促進する団体になることができる。

まとめると、以下の提言になる。

1）　新しい専門性の育成（カウンセリングプログラム開発・実施・評価）

2）　社会システム意識の向上（他の専門職とコラボレーションとネットワーキング）

3）　情報発信能力や技術の育成（カウンセリング研究データを発信する）

4）　注意義務とカウンセラー能力の標準の設定（社会責任の自覚）

5）　社会のために認定カウンセラー事業育成（社会貢献、社会の福祉増進に貢献）

理事会報告（要旨）

第４回　2010年11月21日
第５回　2011年２月６日

◇各部会からの報告
◇2010年度公開研修会　⇨　2011年２月26日（土）　北海道帯広市で開催する。
◇認定カウンセラーの名称について　⇨　「カウンセリング心理士」で検討を続ける。
◇「ガイダンスカウンセラー」資格申請　⇨　認定カウンセラー全員に案内を送り申請を促す。
（２月６日現在、234名の申請あり）
◇学会倫理委員会について
◇学会支部づくりの促進について
（栃木県・長野県につづき岩手県支部設立へ）
◇准認定カウンセラーの受け入れについて
◇認定会入会・大会について　⇨　認定カウンセラー新資格取得者49名、４月１日より入会

◇2011年度　相互研究（研修）会の開催について　会場は毎回、早稲田大学（予定）

第１回　５月15日（日）　　第２回　７月３日（日）※総会あり
第３回　９月25日（日）　　第４回　11月27日（日）
第５回　2012年２月12日（日）

◇日本カウンセリング学会　第44回大会の企画について
９月17日（土）研修会、　９月18日（日）・19日（月・祝）大会当日
会場は、上越教育大学（新潟県上越市）
認定会の企画は、「遺族支援」を中心に考えている

◇2011年度の公開セミナー、公開研修会については、後日提案する

◇書籍等の紹介

・新刊「カウンセリング心理学ハンドブック　全３巻」
日本カウンセリング学会企画　金子書房　「認定カウンセラー養成カリキュラム」

・児童心理　２月臨時増刊　「学校におけるチーム援助の進め方」
金子書房　1,020円

・「実践　グループカウンセリング」　子どもが育ちあう学級集団づくり
田上不二夫・編著　金子書房　2,310円

2011年度　相互研究(研修)会　活動計画(案)

※2011年2月6日現在。今後、部会相互の合同開催等により調整・変更されることがある。
（5月15日（日）第1回の部会で修正等されるであろう）

【職業領域】

A.〔学校カウンセリング部会〕

回　月　日	職業領域研究テーマ	専門部会研修	担当
1. 5月15日 （日）	学校教育を支えるカウンセリング活動のあり方について	会員同士の相互コンサルテーション、会員から出された問題に対してグループで検討し合う、会員間のネットワークづくり	河村 鈴木 苅間澤 川俣
2. 7月3日 （日）	学校現場における思春期臨床への対応のあり方について	会員同士の相互コンサルテーション、会員から出された問題に対してグループで検討し合う、会員間のネットワークづくり	鈴木 苅間澤 川俣
3. 9月25日 （日）	困難高校における教育カウンセリング・プログラムの実践について	会員同士の相互コンサルテーション、会員から出された問題に対してグループで検討し合う、会員間のネットワークづくり	鈴木 苅間澤 川俣
4. 11月27日 （日）	特別支援教育の現状と求められる支援のあり方について	会員同士の相互コンサルテーション、会員から出された問題に対してグループで検討し合う、会員間のネットワークづくり	河村 鈴木 苅間澤 川俣
5. 2012年 2月12日 （日）	ニート・フリーター予備軍にしないためのキャリア教育のあり方について	会員同士の相互コンサルテーション、会員から出された問題に対してグループで検討し合う、会員間のネットワークづくり	河村 鈴木 苅間澤 川俣

B.〔医療・福祉カウンセリング部会〕

回　月　日	職業領域研究テーマ	専門部会研修	担当
1. 5月15日 （日）	「大人（働く人）のうつ」 ―事例を中心に― 講師　飯田俊穂	うつ病の原因、予防・治療、薬知識	石井・熊谷・猿谷・松川・飯田
2. 7月3日 （日）	うつに対する認知行動療法 講師　未定	うつを対象に、本人ができること、認知行動療法実習など	同上

3. 9月25日 (日)	発達障害の家族への支援 講師　未定	発達障害の理解と支援	石井・熊谷・猿谷・松川・飯田
4. 11月27日 (日)	うつと発達障害 講師　未定	うつと発達障害の関連性	同　上
5. 2012年 2月12日 (日)	うつと虐待 講師　未定	うつと虐待の関連 虐待の理解、対応、地域連携	同　上

※　2回～5回については、講師の都合で変更あり

C.〔キャリア・カウンセリング部会〕

回　月　日	職業領域研究内容
1. 5月15日 (日)	当部会では、キャリア支援に関わるうえで、まず自らのキャリアについて顧みることが重要であるとの観点から、相互研修を続けてきました。 今年度の第1回目は、『キャリア選択に影響を与えるキャリアについての既成概念は何か』というテーマで、引き続き自らのキャリアを振り返りながら、グループでの話し合いを中心に学びを深めていきたいと考えています。
2. 7月3日 (日)	キャリアに関する個別の事例を検討します。キャリアカウンセリングの面接（またはケース）記録をもとに、クライエントの問題を見い出す力を私たちが養うことを目的にします。参加される方々の学びの背景は様々でしょうが、その多様さを生かしながら相互研究を進めていければと考えています。
3. 9月25日 (日)	様々な場面で面接の指導を行う際に必要な力をつけるための相互研究です。キャリアカウンセリングの面接の逐語記録をもとに、どのように指導を行っていくかに焦点をあてます。理論も働く場所も様々に異なる者同士の相互研究は、有意義なものになると考えています。
4. 11月27日 (日)	サッカーJリーグでは、現役の選手は勿論のこと各チームのジュニアチームの選手に対しても、キャリアガイダンスなどキャリアに関する指導や教育を行っているとのこと。そこで今回は、実際にこれらの指導を行っている方に、その内容を講演していただく予定です。(講師はこれから交渉します)
5. 2012年 2月12日 (日)	キャリアに対する時事的な問題を取り上げ、参加者同士で議論し、私たちの関わりを見出すこと、検討することが目的です。テーマや時事的な問題を参加者から提示していただき、議論されることを望んでいます。一例として、「高齢者へのキャリアサポートを考える」があります。

【専門領域】
D.〔危機支援部会〕

（１）相互研究（研修）会の活動計画

回	月　日	専門領域研究テーマ	運　営　方　針　等
１．	５月15日(日)	災害の事例について	被災地ＮＧＯセンター、アース等に当たる
２．	７月３日(日)	（総会）　※他の専門部会との兼ね合いで決める	
３．	９月25日(日)	学校への緊急支援	※学校部会とのコラボを探る
４．	11月27日(日)	遺族支援	「わかちあう会」の活動を中心に
５．	2012年２月12日(日)	ＤＶ	中島先生、米田先生が講師候補

（２）「死別の悲しみをわかちあう会」の活動計画

①６月４日　②８月６日　③10月１日　④12月３日　⑤2012年２月４日

※　偶数月の第１土曜日、午後２時～、東京福祉大学にて

連絡・申込み　☎03-5960-7037　Fax03-5960-7038

尚、第44回大会の認定会企画シンポジウムに参加を予定している

（３）危機支援特別継続研修会（第２回）　７月24日（日）　立正大学にて

※第３回特別研修会（２日間）を地方開催の方向で考えてはどうか

危機支援部会よりの緊急連絡

◇被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地は広域にわたる甚大な被害の為、交通やライフラインの復旧が遅れ、物資や衣料品が届かない状態にあります。日本カウンセリング学会＆認定カウンセラー会として中長期の支援を視野に入れた支援活動を検討しています。先遣隊として日本赤十字社の協力を得て、３月22～27日、避難所に入ります。今後、会員の皆様の協力を得て支援活動に取り組んで参りたいと存じます。よろしくお願いします。(危機支援部会長　小澤康司)

◇危機支援部会では、被災地の認定カウンセラーの消息確認(鈴木)、埼玉カウンセラー協会に合流してさいたまスーパーアリーナでの「足湯」や話しかけ活動(高倉、他多数。ここは３月31日まで）を実施。今後は、近くの会員が連絡を取り合って、出来る所で出来ることを支援していく息の長い活動を痛感します。(アリーナにて、阿部)

E.〔コミュニティ・カウンセリング部会〕&〔倫理教育部会〕

〈コミュニティ・カウンセリング実践講座〉

回　　月　日	専門領域研究テーマ	担　当　等
1.　　5月15日(日)	社会福祉からの視点―アウトリーチ―	須藤
2.　　7月3日(日)	DV、虐待、暴力へのコミュニティ・アプローチ	水野、(柏児相前所長)
3.　　9月25日(日)	社会資源のネットワーク化	青戸
4.　　11月27日(日)	ソーシャル・サービスの展開	住沢
5. 2012年2月12日(日)	開業コミュニティ・カウンセリング	水野

F.〔教育・スーパービジョン部会〕

回　月　日	専門領域研究テーマ	専門部会研修	担当等
1. 5月15日 (日)	学会が求めるスーパービジョンとは…(認定カウンセラーとして求められるもの)	スーパービジョンの実態 活動領域におけるスーパービジョンの実際を理解する	福島 上地・諸富・冨田
2. 7月3日 (日)	代表領域からの提案 (検討中)	活動領域と求められるスーパービジョン スーパーバイザーの養成とプログラム①	上地・諸富・冨田
3. 9月25日 (日)	3回以降は他の領域との関連で単独または合同で開催 スーパーバイザーの養成課題	活動領域と求められるスーパービジョン スーパーバイザーの養成とプログラム②	上地・諸富・冨田
4. 11月27日 (日)	スーパーバイザーの質的向上 ・学習プログラムの検討 ・スーパーバイザー資格の要件 ・スーパーバイザー資格の更新 ※資格取得・更新のための学習	参加者によるディスカッション ・求められる学習プログラム ・スーパーバイザーの力量とその評価 ・他	上地・諸富・冨田
5. 2012年 2月12日 (日)			

ガイダンスカウンセラーへの道

飯田　俊穂　　（３月25日）

未曾有の大地震で被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

暦は、春の季節となってまいりましたがまだ寒い日が続いています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて相互研究会や広報誌で機会あるごとに経過報告させていただいております「ガイダンスカウンセラー」※１）についての現状や今後の動向などについてご報告いたします。

はじめてお読みになる方のために、「スクールカウンセリング推進協議会（以下ＳＣ推進協と略す)」※２）について簡単に説明します。2009年５月に10の団体・学会が参加し「穏やかな連合体（各団体・資格の個性と歴史を尊重するの意)」を作ることで合意を得られ設立された組織です。ＳＣ推進協の活動の柱は、一つは現行制度の「スクールカウンセラーに準ずる者」を撤廃していくこと。もう一つは、学校に常駐するスクールカウンセリング担当者としてガイダンスカウンセラーを充てることにあります。その後、加盟10団体で会合を重ね、文部科学省の意向も確認しつつ「ガイダンスカウンセラー」をＳＣ推進協の共通資格とし、会則、審査規程及び移行措置等を整備してきております。いずれ、ＳＣ推進協による試験制度を確立する予定ですが、それまでの間は、移行措置として各団体が推薦する候補者をＳＣ推進協で審査し認定することになりました。

ここでご了承いただきたいのは、ガイダンスカウンセラー資格が、現時点でスクールカウンセラー等への就労を保障するものではないということです。できるだけ多くのガイダンスカウンセラーを擁して活動を展開し、全国で成果を挙げることでわれわれＳＣ推進協の目的も達せられると信じて活動しております。

日本カウンセリング学会では、今回の認定に関しては認定カウンセラー会に一任するとの方針が決まり資格委員会で推薦者を選定し、SC 推進協へ推薦状を添えて申請することになりました。会員の皆様には、１月に申請書が送付されたのでご承知のことと思います。

本学会からは、234名の認定カウンセラーが推薦されました。

今後は、SC 推進協の活動内容として（１）組織・体制作り：副代表は、SC 推進協の顔として、各団体（議決権を持つ団体）の長を選出した。また、企画委員会を設置し①理事会へ提案の作成、②至急の判断を要する問題への検討する役割を担うこととした。（２）ガイダンスカウンセラーの認定･養成の進め方:企画委員会が①～④についてガイダンスカウンセラー認定規則に入れる案を作成する。①カリキュラム、②養成、③認定、④背景となる学問、⑤移行措置の期限、試験実施時期、大学院修了者の認定開始時期を含めたロードマップなど（３）第一回ガイダンスカウンセラー資格のための「認定委員会」の招集：教育カウンセラー協会とカウンセリング学会の推薦に対する認定委員会を２～３月に実施していく予定です。

(※１、※２については、昨年12月27日付けの文書を参照してください)

2010年度　専門領域講座(全体研修)報告　その2

第3回(9月23日)

「倫理綱領の解説と倫理演習」・「スーパービジョンの倫理課題」

講師：水野修次郎（麗澤大学）
上地　安昭（武庫川女子大学）

▷参加者のアンケートから（順不同）

・倫理について、考えるほど解らなくなる。基本理念をふまえても一つ一つのケースが異なり、倫理の判断はさまざまである。温かくクライエントの利益を考えて行動したいと思った。

・答えが定まっていないので充分な配慮、考慮の必要などが多く、判断に迷う時の横のつながり等も構築していくことが大切だと実感している。

・具体的でわかりやすかったです。"白か黒ではない"という部分に納得。'倫理'とはっきり意識したことがなかった自分を反省…。

・倫理に対する理解や意味を取り違えたりしていたので、もう少し詳しく聞きたかった。結構あやふやな取り方をしていたように受け取れたのですが。

・自分にとって倫理意識がどれくらいなのかがわかって、大変参考になりました。倫理綱領はよく読んで、人からどうではなく自分でいつも考えていくことが大切ということがわかった。

・具体的なアンケートやチェックリストに即して考えてからご説明いただいたので、内容の理解が深まりました。

・普段、迷いつつ何とかやっていますが、講義を聞き様々な局面で問われていて、様々な領域に及んでいることを改めて感じました。社会状況の中でクライエントや周りの人の意識も研ぎ澄まされてきている分、見過ごさないことをきちんと考え、向き合う努力が必要と思いました。

・一つ一つ重い判断を要するケースを前に、もっと深めたい気持ちになりました。ずっと考えていきたいテーマです。

・普段、意識しないで行っていることに倫理的問題が多く含まれていることに、改めて意識させられました。もっともっと勉強する必要があると実感しました。

・「倫理意識」チェック及びエピソードは、実例として講師に寄せられた内容であると思われ、大変興味深く、自分の倫理観を認識する機会ともなりました。もう少しゆっくり解説してもらえたらと思いました。

・倫理綱領について、意識チェックポイント、倫理エピソードチェックなどは、具体的に考えさせられることが多かった。水野先生の解説もユーモアを交え分かりやすかった。

・ケースについては、それぞれ考えさせられるテーマでした。できれば、1～2ケースでも小グループで意見交換する時間があればよかったです。

・〔前半〕大切なテーマなのに「走り過ぎ」で惜しかったです。意見交換の時間が欲しかったです。〔後半〕私が今まで受けたスーパービジョンは物足りなく不信感さえ感じることが多かったです。今日掲げられたチェック条件を備えたスーパーバイザーは、果たしてどれだけおられるのでしょう。

・大変参考になった。"灰色"はその通り。どうすれば良いかじっくり考えておくことが"その時"に役立つのだと思う。

・やや速い感じがしました。量も多く、少し消化不足でした。

・時間が短いと思われる程内容が豊富でした。基本的な大事な内容を認識できました。

第4回(11月21日)
「コミュニティ・アプローチの実際
—認定カウンセラーの資格を活かす—」

話題提供者：阿部　正直（亜細亜大学）
鶴田恵美子（CLIP・あこーん）
水野修次郎（麗澤大学）
指定討論者：田上不二夫（東京福祉大学）

▷参加者のアンケートから

（順不同）

・かねてからコミュニティ・アプローチの必要性、重要性については意識していたことでもあり、興味深く講師のアプローチ（実践）を聴くことができた。

・教育現場で20年間、子ども達の教育効果と学校職員のヒューマンラインの在り方とは大変関係が深いと思い続けてきました。当初はコミュニティ心理学を担当する大学の先生方に一笑にふされましたが、やっとここに来てここに光があたってきたという感じで、近年喜んでいます。早くこの分野（コミュニティ・アプローチ）に於ける研究成果の蓄積が教育現場にリターンされることを心から願っています。

・シンポジストの皆様は、個人の自主性と責任性、使命感で主体的に活動していることを痛感しました。コミュニティでは資格で仕事ができるわけではないのですね。個人の働きが実を結び、その上で認定カウンセラーの専門性を活かすという順になるのでしょうか。

・長年培ってこられた地域での活動に頭がさがりました。私も少しずつでも諦めないでコミュニティに係わっていきたいとエンパワーされました。

・いのちの電話に14年係わってきたので、こうした活動を立ち上げた行動力に敬意を感じる。水野先生のケースは、カウンセリングの応用がいくらでもあることに示唆を受けた。自分のキャリアも振り返り勇気をいただいた。

・ピア・メディエーションの話はとても興味深く、もっと詳しく学びたかった。（多数）

・学校とコミュニティの関係や、個人とコミュニティの関係、いずれも問題がコミュニティとも関わり、援助の過程で狭い意味でのコミュニティ（環境）の調整が、問題解決とコミュニティの形成につながっていくことを学びました。

・認定カウンセラーとして出来るコミュニティ・アプローチのイメージが自分の中で出来ていないことを知りました。今後も知識や情報をいただきたいと思います。

・コミュニティに向けての自分の姿勢について啓発されました。「できそうなところからズーズーしく入り込んでいく」という言葉が残りました。できそうなところから、とにかくやってみます。

・水野先生の「平和な学校」、良かったです。

・コミュニティ・アプローチという視点から、学校・家庭・地域をコーディネイトする手法は今までも各地にあったので、それらの実践をもっと集約できるといいと思う。水野先生のピア・メディエーションという手法は、新鮮で職場でも使ってみたいと思います。

・コミュニティ・アプローチというと、あまりにも広く大きな領域にまたがるので、少々ばらついてしまった印象がありました。欲張らず話題提供者を1～2名にして、その分深く…としても良かったかなと思います。

研修会全体についての要望

・認定カウンセラー会の研修内容が最近魅力ありません。参加に迷うことが多くなりました。午前、午後と同じ内容で深いものをやっていただく方が有り難いです。また、内容について筋の通った計画が年度はじめにあると有り難い。研修費はもっと高くてもよいので、濃い中味にして下さい。

第5回(2月6日) 専門領域講座(3コース) ▷参加者のアンケートから

①危機支援部会 テーマ「『生と死』についての語り合い」 講師：小澤 康司

◇「病」「老」「死」の3グループに分かれて話し合いのあと、全体でシェアリングしました。

・「死」のグループに参加しましたが、死別に関する認識がそれぞれ違うことを目の当たりにし、援助者としての理解に対し、一つの考えのみで捕らえることの危険性を感じました。
・身近に体験した死を話し合った中で、自分の生き方への影響（学んだこと）が出され充実していた。「自死」した家族や友人、学校等へのケア、カウンセラーとして、教育者としてどうコラボレーションをとっていくかが重要であると思う。
・病に対する考え方は非常に個別的で一般化は難しい。それに死生観をきちっと持っていないと、多分に抽象的なものになりやすいと思う。「生老病死」についてはすごく宗教的な側面があり、テーマとしては難しいと思った。
・わかち合いのお話を聴けたこと、とても興味深かったです。日頃、余り考えることのないテーマのお話だったこともあり、今後多くの場面で自分の問題にもなることだと思いました。もう少し時間が欲しかったです。
・死という重いテーマについて、いろんな方向から考えることができた。私自身は、周りの死などの体験から、いかに生きるか、死の準備をどうしていくかを考えていくことが大事だと思い準備をしていたつもりですが、現実にできているのか、もう一度内面をみつめていきたい。
・病について色々考えさせられた。支える側と支えられる側のそれぞれの苦悩を感じ、自分自身に置き換えても考えられた。
・「生死観」をもっと表に出していく、外に向けて発信することがとても大切だと感じました。
・自らの老いに向き合う為の視点を数々聴かせていただいた。
・「病」に関して。病人の辛さ・怒りに対応する手段がなく、ただ寄り添いながら何気なく覚えたての自律訓練を独り言的にしていたら、病人が自らに取り入れ、以後折に触れこの自律訓練で自己コントロールされ、「教えてくれてありがとう」と云われた由。これはすごい発見で、病人に対し周囲が先入観を持ち過ぎて接することは、逆に病に苦しむ当人の生きる芽を削ぐこともあるのではととても考えさせられ、参考になりました。
・エンドレスな課題で、それぞれの個々の生活経験によって老・病・死を迎えるのだが、自分で受け止め、人に支えられて、自然の事として考えていく事かなぁー、人生の目標を持つことも大切。
・自分自身の死生観を持つことが大切だと思った。また、突然の死をどう援助するかについては、自分なりに考えたい。
・それぞれが自分の「わく」、「体験」の話をされ、多いに参考になりました。自分の「生き方」そのものが「死に方」となるのではないか。

②コミュニティ・カウンセリング部会＆倫理教育部会 講師：水野修次郎

◇カウンセリングプログラムの作成・実施・評価について、人権擁護の視点より社会変革の担い手としてのカウンセラーについての研修。

・コミュニティの立場からカウンセラーの仕事を考える良い機会になりました。発信をしていく発想があまりなかったので、今までの子どもたちへの対応プラス発信が必要だということもよく分かりました。
・新しい視点を開いていただきました。積極的な働きかけの必要性を痛感しました。
・カウンセラーがプログラム作成をもっと積極的に行い、主体的に社会変革の担い手になるという視点に刺激を受けました。
・地域には色々な問題が見えている。都市化に伴う環境・社会問題等、今日の講演に納得した。それをカウンセラーとしてどう動くか、小さなことから取り組む必要を感じた。

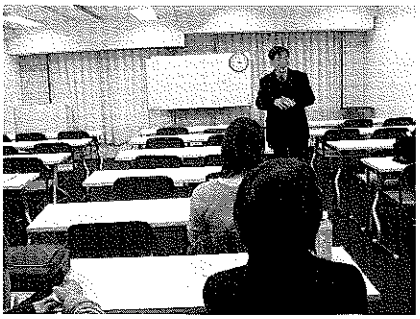
・カウンセリングの活動内容に対して全く受け身になっている自分に気づくことができました。
・カウンセラーとソーシャルワーカーの共通する部分は多くあると思います。だからこそ、それぞれの専門性について整理していく必要があるのではないかと考えさせられました。
・社会環境が個人の成長を阻害する要因がないかを意識する。学校現場でのソーシャルワーカーの動きは、校長の判断により動きづらいこともあり、スクールカウンセラーは外部の人という考えもありそうです。
・堅く枠にはまったカウンセリングというイメージがはじけた感じで楽になりました。と同時にパワーが必要だなとも思いました。水野先生からはパワーをいただきました。
・「とにかく仕事をつくること！」「データを使え！」を肝に銘じて、社会変革の担い手へ。
・現場で今必要とされている内容で助かりました。実践していきます。
・視野が広がる新たな発見がありました。
・予防プログラムの進め方が参考になりました。個別のケースについての検討会なども研修していきたい。
・市町村や県などに訴えていくこと。その際にはデータを利用すること。自分に劣っていることを聞けたので、大変参考になりました。
・認定カウンセラーとしてのこれからの活動、地域での役割を積極的に行動して広めていく大切さを感じました。
・個人力にのみ力量を置くことの問題点、より社会化する方向の明において、多くの知見を得た。

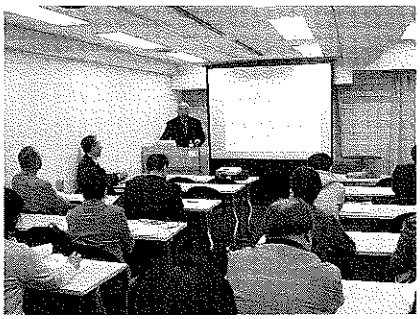
③スーパービジョン部会　テーマ「スーパービジョン部会の専門性をいかに高め徹底するか」

講師：上地　安昭

・スーパーバイザーの研修プログラムができるといいなと思いました。この部会に参加することで自分が成長できるといいなと願って、また参加したいと思います。
・プログラム作りはとても参考になりました。具体的に実践に活かしていくには、まだハードルが高いですが学び続けていきたいと思います。
・認定カウンセラー会が目指すものがわかり、目標が定まりました。更に研修をしていきます。
・スーパービジョンの方向性について、主体的に考えなければと思いました。自分にとってのスーパービジョンについても。
・部会に継続して参加していくことが必要な内容と感じました。カウンセラー教育のあり方について考えるきっかけとなり、有意義な研修だったと思います。
・配付された上地先生の資料は良かった。ただ、学会として充分に練られたプログラムなのか疑問があった。
・スーパーバイザーを認定していく上でのテーマの難しさを感じた。今後も学んでいきたい。
・来年度への期待は高まっています。とにかく継続して欲しいです。

①危機支援部会


②コミュニティ・カウンセリング部会＆倫理教育部会


③スーパービジョン部会

学会・認定会主催

公開セミナーに参加して(感想)

鶴田　恵美子
(コミュニティ・カウンセリング部会)

・2010年11月28日（日）　麗澤大学にて
・テーマ　「豊かに生きる知恵と技」
・講演『豊かに生きる子育て』　青戸　泰子（岐阜女子大学）
・講演『人間関係づくりは“読顔力”から』
佐藤　綾子（日本大学）
・シンポジウム　司　会　水野修次郎（麗澤大学）

麗澤大学での公開セミナー、コミュニティ心理学のテーマは関心のあるテーマの上に、講師の青戸泰子先生、佐藤綾子先生に惹かれ参加した。

コミュニティ心理学の必要性や可能性を予感しながらも今ひとつ、つかめないでいた時で何かヒントがあるのではという期待を持っての参加であった。

青戸先生は自分の子育てを通して、今子どもにしてあげたいことをしていくという素朴な発想からスタートされたというのが、とても新鮮であった。それがまさにエンパワメントなのだと響いた。

地域の方に呼びかけ始めるコミュニティ活動というと、責任の問題や人間関係の煩わしさなどが先にたってしまい、行動に移すのがなかなかできなくなるのだが、青戸先生はそこをいとも簡単に飛び越えていき、まずその行動力には驚いた。

子どもたちにとって好ましいことを考えていった時必要なものを整えてあげるのは大人の役目と地域の親たちに呼びかけていったのである。素朴な動機が人を動かしたというのはとてもシンプルだが、人を動かす大事なポイントだと思う

地域のお母さんたちはその呼びかけに応え、子どもを取り巻く環境が変わっていった。青戸先生のすごさは、自分の体験を単なるサークル活動に収めるのではなく、この体験を更にその後の地域活動に発展させてご自身の研究テーマとして専門領域に拡げていき、コミュニティ心理学の実践者であり研究家として活動しているところである。

佐藤綾子先生はパフォーマンス学会を立ち上げ、文字通りに日本にパフォーマンス学を認知させ、定着させた方である。子どもを持つ主婦の立場ではしがらみもあったろうに、単身渡米を決意し未知の分野であるパフォーマンス学を学びに行った経緯は、先生の著書で拝見していたことがあった。その後は、時々マスコミで取り上げられる活動を知っていてもご本人の話を直接聞くことがなかったので、先生のエネルギッシュな人柄に触れたいとの思いで参加した。

パフォーマンスということが、果たして日本人にどのように受け入れられるか、正直疑問もあった。

アメリカの大学で単位を習得して日本に戻ってから、パフォーマンス学をどうやって広めていくか孤軍奮闘する経緯を、まさに表情豊かにパフォーマンスに満ち満ちて話す先生は、未来の日本人の希望の光らしい輝きを一気に放っていた。

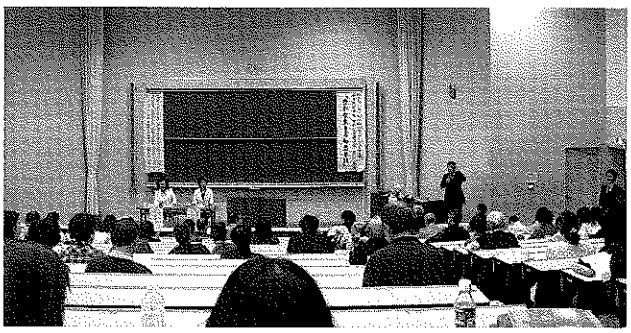
大学の学長に直接談判し、自分をパフォーマンス学の講師として起用するよう説得して勝ち得た仕事の話、マスコミに出てパフォーマンス力の必要性を唱えても、政治家や企業の代表者には時代が早すぎると軽くいなされたりした経験など、聞いている人達を退屈させない話し方は、歩くパフォーマンス力と言える程のオーラを放っていた。

紆余曲折、一人でパフォーマンス学会を立ち上げ広める力はまさに、日本に定着させるのだという先生の強い思い、エンパワメントであった。

コミュニティ心理学は、カウンセリングルームでの１対１のカウンセリングだけでなく、広く地域に飛び込んで対人関係を豊かにするために、カウンセラーがコーディネーターの役割を担うことが求められている。これからの社会の変化に対応していくためにも、カウンセラーは学んできた対人関係スキルを活かし、もっと社会的ニーズに応え社会貢献をしていく必要がある。

お二人の講師はまさに、コミュニティへ働きかけ無から有を生み出し、人間関係の深い繋がりを体験できるシステムやツールを作り、豊かなコミュニティづくりに貢献していった。

青戸先生の素朴な直感と行動力、佐藤先生の直感と強い意志が原点にあるとすれば、自分が何をしたくてカウンセラーとして活動していきたいか、ひとつ階段を登れるような気がしてきた。



認定カウンセラー会主催

公開研修会報告（1）

・2011年２月26日（土）
・北海道帯広市　「とかちプラザ」にて
・テーマ　　「人と人をつなぐカウンセリング」
・講　師　　田上　不二夫（認定カウンセラー会会長）

◇公開研修会に参加して

認定カウンセラー　**齋藤　敏子**

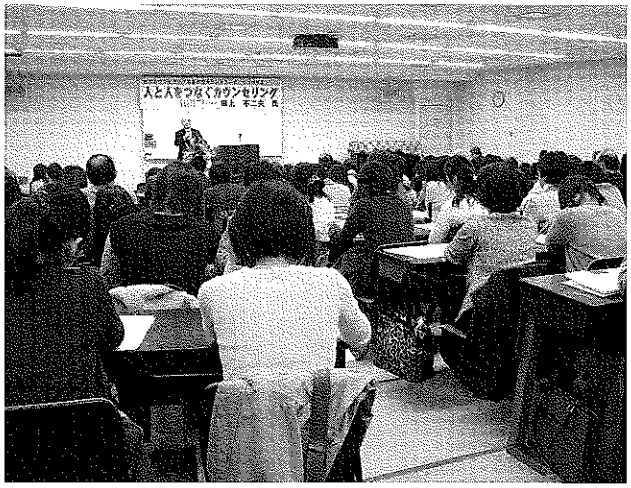
私は現在、小学校の校長として生徒指導上の課題をかかえる多くの子どもたちと日常的に接している。いじめ、不登校、自殺、暴力行為、学ぶ意欲・規範意識性モラルの低下と、そもそも学びの目的意識さえも低下し、数え上げたら切りがないほどに学校は今、難題山積の時代真っ直中である。

中でも言語能力（コミュニケーション能力）の低下が招く人間関係力と自己洞察力、自尊感情の低下は深刻な状況である。このようなことは、私一人ばかりが感じていることではないと思われるが、誰もが課題の大きさに圧倒され、自分の無力を嘆いているのではないだろうか。

今回、北海道に初めて認定カウンセラー会会長の田上不二夫先生をお迎えし「認知行動カウンセリング入門」を学ぶ機会が得られたことは、北海道全体にとっても喜ばしいことであったと感じている。帯広市の方々にはちょっと申し訳ないが、決して交通の利便地ではないこの土地で100名強集うというのは並大抵のことではない。それだけ、「学びたい」という切実感があって広い北海道の隅々から会員・非会員問わず多数参集したのだと思う。（ちなみに、私は道南の知内町からＪＲを乗り継ぎ、乗り継ぎほぼ８時間かかりたどり着いたが、東京に出た方が余程スムーズだったかも知れない。）

さて、研修内容であるが、田上先生の飾らない口調で「認知行動カウンセリングの特徴」について詳説していただいた。例外を探すこと、つまり夫婦げんかが耐えない日頃であるが、夕食後のお茶の一時だけけんかのない時間帯があった。けんかの原因追求やけんかの様相に着目するのではなく、例外的な（けんかのない）その時間を延ばす努力をしよう、という発想の転換である。さらに、「ゼロか百か」の発想から、オリンピックの選手であっても「ゼロから百のライン上」のどこかに位置するのだ、位に考えてみてはどうかということであった。このような考え方が定着すれば、自殺者がもっと減るのではないかと思えてくる。

対人関係ゲームの「凍り鬼」の解説で「対人関係能力の低い子は自分が逃げるのみで、周囲を助けようとしない」という言葉も、日頃の子どもたちの様子からうなずけるものであった。



2010年度　認定カウンセラー資格取得者からのメッセージ（1）

◇「よりよい出会い」体験を

さくらメンタルヘルス研究所　主任研究員
吉田信康

はじめまして、よろしくお願いします。

私が最初に「カウンセリング」という言葉を耳にしたのは、高校生のときだった。深夜放送の「ラジオ講座」の前に、「カウンセリングのコーナー」というのがあって、思春期の心理や進路について歯切れのよい話がされ、聴いていて心地よかった。5分ほどの短い番組だったが、気持ちが落ち着き思考が整理された。

高校を卒業し社会で働いていた頃、南博の「初歩心理学」に出会った。内容にひかれて暗記するくらいまで読んだ。そして、心理系の職業に就きたいと思ったが、まだ、そういうものが確立されていない時代だった。近いのは学校の先生だと考え、それになろうとした。会社を辞め、アルバイトをしながら通信制の大学で学んだ。30歳を過ぎてのことだったので、最初研修に参加したとき、教育委員会のスタッフだと間違えられた。

「カウンセラー」というポストを知ったのは、アメリカのＴＶ番組「新・スタートレック」だった。ストーリーの中で、カウンセラーは出会う生命体感情がわかり、宇宙船の艦長はじめ乗組員を支え重要な役割を果たしていた。それに憧れた。

あにはからんや、「2009年度のアメリカ心理学会の会長は、家族臨床を専門とするジェームズブレイ（James Bray）博士であり」（亀口憲二・家族心理学特論'10放送大学テキストP10）、心理学研究や成果を社会に還元される方策を追求しているとあった。ＴＶはそういったアメリカの事情を反映しているのだと思った。

今回、資格をいただいたが、最初のカウンセリングとの出会いから言えば40年の歳月が経っている。この間、さまざまな感情体験をさせてもらった。その意味では必要な遠回りだったと思う。

私のメルアドは2008年の長野研修を記念してのものだ。それほど印象深い出会いだった。孤独は人を脆くし、硬直化させる。「よりよい出会い」が社会に反映できたら、世の中が今より少しは住みやすくなるのではないかと思う。今後、みなさまと一緒に活動できることを楽しみにしています。

◇認定カウンセラーとして

山浦さゆり

この度、認定カウンセラー資格試験に合格し皆さまの仲間に入れていただきました。人生はそれなりに長く生きてきましたが、カウンセリングに関してはまだまだ初心者です。やっとスタートラインに立てたところです。

私は長年、中学校の養護教諭として保健室で生徒と向き合ってきました。若い頃は体当たりで生徒と向かい合い、それで生徒を理解できていると信じていました。それがいつの頃からか、生徒との間に違和感（かみ合わないという感覚）を持つようになりました。目の前にいる生徒のことが分からなくなり自分の生徒への対応に不安や焦りを感じるようになっていきました。

その頃の自分自身を振り返ってみると、「カウンセリングマインド」という言葉を根拠にして、中途半端な生徒対応をしていました。そのような中で行き詰まりを感じ、「カウンセリング」をきちんと学びたいと思うようになりました。理論も学んだ上で自分なりのカウンセリングを行えるようになりたかったのです。

そんな時に、公開講座でカウンセリングを学ぶチャンスに恵まれました。その過程で「認定カウンセラー」の資格もとれることを知り、自分の学びのひとつとしてチャレンジすることを決めました。

そこでは本当に沢山のことを学びました。カウンセリングは、「目の前にいる人を分かろうとする」ことから始まります。そのためには、「相手を分かろうとしている自分を分かる、つまり、自分といつも向き合わなければならないこと（自分との対峙）」に気づきました。自分との対峙では目を反らしたくなったことも数知れずあり、生半可にできることではありませんでした。しかし、それでも多くの仲間に支えられ続けることができました。

資格試験には幸いにも合格することができましたが、これで終わったわけではありません。ずっと学び続けていくことが大切です。これからは、自分の立っている場所で、私の目の前にいる生徒をみつめながら、自分にできることをしていこうと考えています。それと同時に、「自分との対峙」も続けていくつもりです。そして、いつか自分なりのカウンセリングの形をつくることができたら素敵だなと思っています。

これから、ご指導の程よろしくお願いいたします。

◇自信を与えてくれた認定カウンセラーの資格

川島　多美子

今から13年前、私は、地域の子どもたちを集めた居場所づくりの活動を始めました。当初は心理学に関する知識はありませんでしたが、子どもたちと係わるなかで次第にその必要性を感じ心理学の勉強を始めました。そして８年前に、ボランティア活動の実績とその時持っていた心理学の資格（日本交流分析協会認定）で、静岡県教育委員会所属のスクールカウンセラーとして採用されました。当時は、全ての中学校にスクールカウンセラーを配置していく時期で、なり手が不足していたため私のような経験の浅い者でも採用されたのだと思います。

しかし、それからが大変でした。当時の私は、学校のことがよく分からない上、個別カウンセリングの知識も経験もなかったにもかかわらず、現場ではプロとしての仕事が要求されました。

どうして不登校になるのか、どうしたら再登校できるのか、不登校の子どもやそれを支える親御さんたちの気持ちや先生の立場など、本当に分からないことばかりでした。

そんな時、カウンセリング学会の勉強会を知り、焦りとプレッシャーを感じながら勉強を始めました。当時をふり返ると、学んだことはすぐ実践するという知識と経験が追い駆けっこするような日々を送っていました。そんな状態ですから、認定カウンセラーの資格をとるなんて夢のまた夢でした。しかし、経験が増えていくにつれて、「カウンセラーとしての力を認めてもらえる資格が欲しい」と感じるようになり、資格試験に挑戦しました。今回、この試験に合格したことで、嬉しい気持ち以上にホッとしたことを覚えています。これで、これからも自分はこの仕事を続けられると思ったからです。

これからは、認定カウンセラーという名で仕事ができることが自分の自信と励みになっていくように感じます。今後さらに学びを深め、学校を支える一員として活動していきたいと考えています。

（ＮＰＯ法人　かっぱらぱ編集室）

INFORMATION

◇2010年度　認定カウンセラー資格取得者（49名）

秋葉　早苗	浅井　志乃	石田美穂子	猪野　裕子	岩本　豊一	上野由美子
梅原マサ子	荻野　欣男	小倉　泰憲	川島多美子	熊谷　綾子	小暮富実恵
近藤　史恵	櫻井　眞澄	櫻井まち子	沢田　有香	品川由紀子	島田　雪子
清水　智子	清水　八郎	鈴木　郁子	鈴木　法子	関　奈保子	高池　浩子
武澤　裕子	田中あかね	冨田　直子	豊田　精一	中村　光子	長森　砂絵
橋本　紀子	長谷部巳起子	堀金実樹子	牧野　裕美	正木眞理子	松田　英子
松原　由枝	松本　裕子	丸山奈穂子	三上　忠彦	餅原　尚子	森本　淳子
八木富貴子	山浦さゆり	山下みどり	山田由喜子	吉田　信康	吉田　理恵
和澄　洋子					

◇2011年度　第44回　日本カウンセリング大会の案内が送られてきています。確認ください。

◇資格更新を迎える方の手続き締切り、今年度は第１回が６月30日、第２回が12月１日です。

【編集後記】

・想像を絶する壮絶な光景、言葉を失う甚大な被害。一瞬にして全てを奪った自然のエネルギーが憎い。避難所をまわって両親を探している小学生の姿に、今は何もしてあげられないいらだちだけが先行する。危機支援部会でメールを交わしつつ出番を探っている。

・今回の９号で、今年度の計画等をお知らせしました。今後、手直し等があるでしょうが、見通しをもった活動の一助になれば幸いです。

・手元に届いた原稿だけを急いで掲載しました。記事の差し替え、次回掲載などにしたものもあります。ご了承ください。